
洋館

村野走

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

洋館

【Nコード】

N1233U

【作者名】

村野走

【あらすじ】

ーヘブルの神、我が主エホヴァの名にかけ、万軍の主の名に、メトラトンの名にかけ、魔神の言葉、大竜の神秘にかけ、我は呼ぶ、森の精と地の精よ、悪魔コエリよ、アルモンシン、ギボル、ヨシュアよ、エヴァム、ザリアトミナトクよ、来れ、来れ、来れ！ー
H・P・ラヴクラフト「チャールズ・ウォードの奇怪な事件」より引用

櫛の森を抜けた先、小高い丘の上に旧アーム邸があった。

私はこの洋館の歴史を調べるために、朝早くから森へ向かい、太陽が真上にあるところに、この洋館に着いた。

屋敷の壁ははがれ落ち、木がむきだしになっていた。その木も腐っており、今に崩れてもおかしくなかった。

私はカメラと懐中電灯を持ってこの古びた洋館に入った。

蜘蛛の巣が張り巡らされた玄関ホールを抜け、奇妙かつ、考えるだけでも震えが止まらなくなる広間に出た。

脚が異常な角度に曲がった漆黒のテーブル、

神を嘲笑するかのような狂気に満ちた模様の絨毯、悪意ある表情の肖像画、そのすべてが私の血を凍らせ、震えさせた。そして私は最も恐ろしいものをみた、それはテーブルの上にあった、それを見た瞬間、私は恐怖で混乱してしまい、この忌まわしき広間から逃げ出したのだ。

しばらくして落ち着きを取り戻した私は、あれは幻覚なのだと自分に言い聞かせ、再び玄関ホールを抜けて画廊へと入った、画廊の絵画はこれと言った特徴もなく、私は安心してそのまま図書館へと入った、しかし、そこにあった書物は、語るのも恐ろしい、危険なものだったのだ！

そこにあった書物の内容は、黒魔術、人食、

地下に封印されし魔物、近視相姦、乱交の推奨など、考えるだけでも汚らわしく、おぞましいものだった。

私はもう動くこともできず、只々恐怖ですくみ上がっていた。

気がついた時にはもう夜になっており、私はすかさず懐中電灯をつけた。

私はすでに恐怖に染まりきっていたが、それよりも好奇心の方が勝

り、この洋館をもう少し探索することにした。

そして私は洋館の中を徹底的に探索した、偏執狂のように。

そしてすべての部屋を探索し、玄関ホールへと戻った時、何かが視界に入った。

そして、私は気を失った。

私はこれを必死の思いで書いている、なにかが、なにかがこちらに近づいているのがわかるのだ、風が強くなる、月が赤くなる、視界が歪む、物音が聞こえる、激しい痛みと、そして恐怖とともに、私は崩れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1233u/>

洋館

2011年10月9日01時37分発行